

峰 万里恵 (うた) 齋藤 徹 (コントラバス) 高場 将美 (ギター)

(I)

1. スール (南) Sur

詞：オメーロ・マンシ Homero Manzi ; 曲：アニーバル・トロイロ Aníbal Troilo

1940年代に、タンゴに新しい風（といっても郷愁あふれる場末の街の風景）を運んできた作者コンビの、もっとも有名な曲です。

マンシが最初につくった歌詞は、ぜんぶ同じパターンの定型詩でした。バンドネオン奏者・楽団リーダーのトロイロは、それでは音楽的に単調すぎるので、変化を加えたメロディを作曲し、それによって歌詞を書き直させました。それが、「スール (南) ……」とうたう印象的な部分になりました。

古い南の街角——いちめんの空。思い出の中には、きみの若々しい長い髪、「さようなら」の上に浮かぶきみの名前。あの鍛冶屋の街角、泥と草原、きみの家ときみの歩道、掘割り。そして雑草とアルファルファの薫り、それがふたたびわたしの心を満たす。

古い南の街角——どこかへ行ってしまった空。土手にたどり着くと、あのときわたしが奪ったキスの下で、愛情に震えていたきみの20才。過ぎてしまったことどものノスタルジー、人生がいつしよに持って行ってしまった砂、変わってしまった街たちの嘆き、そして死んだ夢のがさ。

南……土堀……その先は、南……とある酒場の明かり。もうむかしのように、ショーウィンドーにもたれかかって待っているわたしを、きみは見ることはないだろう。もうわたしには星たちで照らすことができな、ふたり仲良く夜ごと歩んだ道を。場末の道たちも、月たちも、わたしの愛もきみの窓も、すべては死んでしまった。わたしには、よくわかっている。

2. パリに錨 (いかり) を下ろして Anclao en París

詞：エンリーケ・カディーカモ Enrique Cadícamo ; 曲：ギジェルモ・バルビエーリ Guillermo Barbieri

1920年代後半から、パリでのタンゴ・ブームに乗って、ダンスを踊ればモテて甘い人生がおけると、アルゼンチンの若者たちが大西洋を渡っていきました。

この曲は、カディーカモがバルセロナ（スペイン）のカフェで歌詞をつくり、ニース（フランス）のカジノで公演していた歌手カルロス・ガルデルに送りました。作曲者は、ガルデルの伴奏者のひとりだったギタリストです。

さすらいのボヘミアン生活に引きずられてきて、ブエノスアイレスよ おれはパリに錨 (いかり) を下ろして身動きがとれない。数々の不幸のしかかり 困窮に揺さぶられ、おれはこの遠い国からおまえのことをしのんでいる。

おれはじっと見ている やわらかく降ってくる雪。

大通りに面した部屋の窓から見える赤っぽい光たちは死んでゆくようなトーンで、気味悪い瞳たちのようだ。

どんなに変わったことだろう！ おまえのコリエンテス通りは……スイバーチャは、エスメラルダは？ おまえのあの場末にしても！……

だれかが話してくれたけれど おまえは花ひらいているところ。新しい通りがふたつ、対角線で組まれているような……。おまえにはわかりはしないだろう どんなおれが、おまえを見たがっていることか！

ここで今、おれは座礁している。金もなく、なにも信じられず……どうなるか、だれにもわかるものか。いつの夜か死神がおれを捕まえ、そして、チャウ！ ブエノスアイレス、二度とおまえに会えなくなる！

3. ペーナ・ムラータ (黒い悩み) Pena mulata <milonga candombe>

詞：オメーロ・マンシ Homero Manzi ; 曲：セバ스티アーン・ピアーナ Sebastián Piana

マンシは、最初はルンバのリズムにするつもりで、この歌詞を書きました。キューバの詩人などが、韻を踏んだ短いフレーズをつらねて、アフリカの太鼓のリズムを思わせる詩をつくったのを真似したのでしょう。ことば遊びの中に、情熱のドラマを浮かび上がらせます。ピアーナは、音楽の教授でピアニスト。ブエノスアイレスにアフリカ人奴隷の血を引くコミュニティがあった時代（19世紀）の、《カンドンベ》という祭りの舞踊劇のリズムを模して作曲しました。

ムラータ (黒い肌の女) の悩み、刺しゅう織りのロープの

下で、ほどけていく。ミロンガの痛みが、ほんの少しだけ長くする、悲しい嘆きで秋の夜を。

あわれなムラータ、おまえの血管の中に、静かな、真っ赤な1輪の花がつぼみを出した。待ち伏せる恨み、絶望の絵筆が、彼女の胸に真紅のしみを描いた。

おまえの母は恋愛ざたで死んだ、《太鼓の街》で。彼女に不在の道を開いたのは、とある牛追いガウチョのナイフ。

おまえの父は、影の中で死んだ、その卑怯者に復讐するために。ムラータ、おまえの星が生まれた、クレーブ織りの空の下。

4. 夜がしらむ *Viene clareando* <zamba>

曲：セグンド・アレーデス *Segundo Aredes* / アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*

コントラバスとギターのみで、おとどけします。

セグンド・アレーデスは、ほとんど一般には知られていない地方音楽家で、アルゼンチン北西部トゥクマン州の溪谷の村に住んでいました。そこへギター弾きの詩人アタウワルパ・ユパンキが放浪の道すがら、たずねてきて、一夜の宿を借りました。ワインを飲みながら、アレーデスのア

ルパ（民俗ハーブ）とユパンキのギターで、のんびりと作っていったのがこの曲です。できあがって、何度も弾いているうちに、白々と夜が明けてきたので、このタイトルに決まったとのこと。

《サンバ》は、アルゼンチンのフォルクローレでもっとも愛されているリズムのひとつです。

5. アニョランサス（追憶） *Añoranzas* <vals criollo>

詞&曲：ホセ・マリーア・アギラール *José María Aguilar*

歌手カルロス・ガルデールの第1ギタリスト（バルビエーリより技術が高かった）アギラールは、素人っぽいところがありますが感傷にあふれた、いい味の作詞家でもありました。奥さんにまず作詞させ、それを大幅に書き直したという話です。この曲では、ガルデールがさらに修正して（歌詞の順序を入れ替え）ハッピー・エンドにしました。

凍った北風が、わたしのバラの茂みの花たちを殺した。わが青春時代から残ったものは、ひとりぼっちで見捨てられたバルコニーの手すり。中庭には昔と同じ泉、わたしのうたを聴くことができた泉。でもそのそ

ばで、痛ましい声で、冷酷な冬がうたいに来る。

白い雪が埋葬してゆく、すべての美しいものを、すべての愛を。ひとびとの魂の中でうたっているのは、悲しいミュージック、痛みミュージック。

きのう愛にあふれる巣を織り出したつばめたちは、相談しあってもう行ってしまった、もっと熱い、別の気候の土地に向かって。

でも冬は、その悲しみとともに、すぐに支配を終えるだろう。ふたたび、あの美しいものたちが帰ってくるだろう。そして全世界が、しあわせに笑うだろう。

6. いつの夜にか *Será una noche*

詞：マヌエール・フェラダース・カンポス *Manuel Ferradás Campos* ; 曲：ホセ・ティネッリ *José Tinelli*

今日ならラヴ・バラードとでも呼ばれるかも知れません。1950年ごろのモダンなタンゴ歌曲。作曲者はピアニストで楽団リーダー、奥さんは歌手チョラ・ボッシュでした。夫婦ともにレコードよりもラジオ放送で活躍したアーティストです。作詞者は芸能週刊誌の編集発行人で、後年アルゼンチン・TVラジオ記者協会の初代会長になった大物です。奥さんは著名な作曲家（歌手・女優でもあった）マルーハ・パチエーコ・ウエルゴです。

わたしは知っている、きっと、いつか幸せな夜がやって

くるだろうと。それが、わたしの勝利の夜になるだろう、生きることの疲れが、あなたを帰ってこさせるとき。

だからわたしは待っている。だからわたしは夢見ている。わたしは知っている、遠くであなたが、わたしの思い出を祝福していることを。そしていつか、あなたは苦しみへ耐えられなくなる。ノスタルジーが、あなたをわたしのところへ帰ってこさせる。

あなたが戻ってくる夜、わたしの魂は星の光を身にまとうだろう。そしてわたしの心はひとつの花になるだろう、愛の夜露の下で。

7. 場末のメロディ *Melodía de arrabal*

詞：マリオ・バティステッラ *Mario Battistella* ; 曲：エドゥワールド・ボネッシ *Eduardo Bonessi*

パリで制作された歌手ガルデールの主演映画（同名）の主題歌です。著作権登録は彼の名前になっていますが、彼の音楽の先生（パリに来る船中ずっとレッスンをしていた）が作曲してガルデールにプレゼントしたものです、彼は歌がもっと映えるようにメロディをちょっと修正していますが。

作詞者はイタリア生まれで、大学はパリ、20代でアルゼンチンに来てレビュー作家などしていた国際的ボヘミアン。映画制作当時は、パリにいて映画の字幕翻訳などしていました。ガルデールの通訳でした。映画の脚本家レペラも作詞者としてクレジットされていますが、名前だけでしょう。

月が銀色に染める街、うすぐらい路地にバンドネオンのつぶやき。花のようにきれいな女の子が、コケティッシュに待

っている、しずかな街灯の光の下で。

荒くれものと歌い手たちの生まれ故郷。おまえの壁に、わたしはナイフで愛する名前を刻んだ。キャバレーの女ローサ、金髪のリタ、町娘のリタは最初のデートでわたしに愛をくれた。

街よ……おまえには、センチメンタルなスズメの落ち着いた魂がある。悩み……祈り……やくざな街のすべてが、場末のメロディそのもの。

古い街よ……おまえを思い起こすわたしの眼から、でっかい涙がこぼれたら許してくれ。涙はおまえの石だたみころがるとき、長くつづくキスとなり、おまえにわたしの心を与える。

(II)

1. エンビーディア (うらやみ) *Envidia*

詞：ホセ・ゴンサーレス・カスティージョ José González Castillo /
アントーニオ・ボッタ Antonio Botta / セーサル・アマドーリ L. César Amadori
曲：フランシスコ・カナーロ Francisco Canaro (ルシオ・デマーレ? ¿Lucio Demare?)

フランシスコ・カナーロ制作の1930年代なかばのミュージカル・コメディ『タンゴの祖国』の挿入歌のひとつ。カナーロの指示で、ピアニストで音楽監督役のデマーレが作曲したと推定されます。エンビーディアは羨望、嫉妬、そねみ、恨みなどのまざった感情のようです。作詞は台本作者たち3人の名前で著作権登録されています。

エンビーディアを感じるの悩んでいる人、全人生がただの夢だと知りながら待っている人。卑怯者、死んでゆく人、人を殺す人、傷つける人、許されること

がないから。

わたしは正直者に生まれた。誇り高い頭を一度の下げたことはない。友にも敵にも手をさしのべた。そしてきょう、わたしの過去の冷酷な鏡に写る、変わり果てたわたしの姿、エンビーディアのせいで。

わたしは嫉妬ゆえにエンビーディアを感じる、あなたのそばで愛されている幸せな人を見て。眠れない夜の、敗北者のエンビーディア。愛ゆえのエンビーディアほど大きな痛みはない。

2. マレーナ *Malena*

詞：オメーロ・マンシ Homero Manzi ; 曲：ルシオ・デマーレ Lucio Demare

作詞者は1930年代から、タンゴに新しい詩的・文学的な洗練を加えた偉大な詩人です。この歌詞は、作詞作曲家協会の仕事でブラジルを訪れたとき、たまたまナイトクラブで聴いた女性タンゴ歌手(アルゼンチン人でした)にインスピレーションを受けて、グラス片手にその場で書き上げました。作曲者はピアニストでバンド・リーダー。プエノスアイレスでこの歌詞を渡されて、カフェのテーブルで30分もかからず作りました。「歌詞がとても音楽的だったので、読むだけで自然にメロディになった」とのこと。

マレーナはタンゴをうたう、だれにもうたえないタンゴを、すべてのことばに心を込めて。マレーナはバンドネオンの悩みをもっている。たぶん、遠い子ども時代に、彼女のヒバリの声は、路地裏の暗いひびきを持ったのだろう。それとも、そのひびきは、彼女がアルコールで悲しくなっ

たときだけ口にする、あのロマンスの名残るか……。マレーナは影の声でタンゴをうたう。

あなたの歌には、最後の出会いの冷たさがある。あなたの歌は、思い出の塩の中でにがくなる。わたしは知らない、あなたの声が悩みの花なのかどうか。ただ知っているのは、あなたのタンゴのつぶやきが聞こえると、あなたの大きな心を感じるということ、わたしよりもずっと大きな心……。

あなたの両目は忘却のように黒く、あなたの唇は固く結ばれた恨みそのもの。あなたの両手は寒がっている2羽の鳩。あなたの血管にはバンドネオンの血が流れている。あなたのタンゴは、路地のぬかるみを横切ってゆく、見捨てられた赤ん坊たち。すべての扉は閉ざされ、歌の亡霊たちが吠えている。マレーナは割れた声でタンゴをうたう。マレーナはバンドネオンの悩みをもっている。

3. 瓦屋根の古い大きな家 *Caserón de tejas <vals criollo>*

詞&曲：カトゥロ・カスティージョ Cátulo Castillo; 曲：セバステアーン・ピアーナ Sebastián Piana

この曲の、最初の歌詞1句と音楽モチーフをカスティージョが作り、彼の先生でもあったピアニスト・作曲家ピアーナに渡しました。ピアーナは、それを発展させて全曲を作曲し、その後、音楽に導かれて歌詞が完成しました。

ベルグラノー地区はプエノスアイレスの北部。今世紀の初めは、まだ田園の面影が濃い、大きなヨーロッパ風のお屋敷が点在する土地でした。

ベルグラノー区……瓦屋根の古い大きな家……覚えていますか？ お姉さん、歩道の上での数々のあたたかい午後のこと……？ そのとき近くを通る汽車が、わたしたちのところを置いていった、古い追憶の数々——あのバラの木の、しとやかな姿の下に……。

ベルグラノー区……瓦屋根の古い大きな家……アルヒーベ(水くみ場)はどこに行った？ あなたの中庭

たちはどこに行った？ 格子窓はどこに行った？ あなたはピアノに帰ってくるでしょう、わたしの年とったお姉さん。そして数々のメロディの中に、あの日々が生きてゆくでしょう、わが家の晴れた日々が。

甘い昼寝の時間におじいさんが話してくれた、あのお話にあったように、暗いホールの小さなピアノがもどってくるだろう、あのワルツの純粋なやさしさを、血として流そうと……

ワルツがふたたび命をもった！ ピアノの眠り込んでいた声たちの中で、そして あなたの手のこまやかな魔術にひきよせられて、おじいさんのフロックコートの裾が舞ってくるだろう……彼を呼んで……！ わたしたちは 遠いお話を生きましょう。だって あのベルグラノーの古い大きな家で——閉ざされた神秘を打ち破って——ママが私たちを呼んでいる……！

4. コントラバスのソロ *Solo de contrabajo*

齋藤徹さんは、さまざまな芸術ジャンルと共演し、ほとんどすべての音楽スタイルで演奏しますが、本来は即興演奏家です。

きょうはタンゴを演奏するという事はわかっていますが、曲名は未定です。既成の決まった曲を弾きますので、完全な即興ではありません。どうぞお楽しみに。

5. アポロヒーア・タンゲーラ *Apología tanguera <milonga>*

詞：エンリーケ・カディーカモ Enrique Cadícamo ; 曲：ロシータ・キローガ Rosita Quiroga

大草原の吟遊詩人のスタイルで、ブエノスアイレスの暗黒街に生まれたタンゴのことを語ります。ダンスのリズム《ミロンガ》の原型といえるでしょう。作曲者は女性歌手で、ギターも上手でした。

やくざなタンゴ、おまえはひたいの傷を隠している。頭から足先まで喪服に身を包み、靴を踏み鳴らして行く。おまえのせいで、カルメンシータは、ぬかるみを

はねかしながら生きている。左ぎっちょのナバーロは監獄へ行った。おまえゆえに、わたしのギターの中には、吟遊詩人の歌合戦がある。

すてきなタンゴ、ケンカを売っているようなバンドネオンの中で体を伸ばし、息も絶え絶えに流れ出して、みんなを踊らせ、呼吸させる。おまえは涙、娘のエプロン、街灯のガス灯、そしてナイフとなって人を刺す下町娘の悲しみ。

6. 遠いわたしのふるさと *Lejana tierra mía <canCIÓN>*

詞：アルフレード・レペーラ Alfredo Le Pera ;

曲：カルロス・ガルデル Carlos Gardel + テリーグ・トゥッチ Terig Tucci

ガルデルの主演映画の挿入歌のひとつで、スペイン民謡っぽく作られています。間奏のように自由な部分は、映画の音楽監督でオーケストラ指揮者のトゥッチが、付け加えました。ガルデルの映画の曲は、彼がまず場面にふさわしいメロディをうたって作り、それに合わせて作詞されています。その歌詞もガルデルは時に修正します。

遠いわたしの土地、おまえの空の下で、いつかわたしは死んでゆきたい、おまえになぐさめながら。懐か

しい教会の鐘たちの黄金の歌声を聴きながら。

わたしの村の静けさをやぶるのは、ただセレナータの歌だけ。熱い心の巡礼者が、銀色の月の下、花咲くバルコニーでうたう。愛の誓いと、悩みのつぶやきを、そよ風が運んでいってしまう。

わたしの愛の土地、わたしは故郷の名を呼びつづける、夢の来ない千の夜ごと。わたしの星よ、言っておくれ、わたしの希望はむなしくはないと。おまえは知っている、わたしがじきに帰ってゆくにちがいないと——わたしの古い愛に。

7. ラ・クンパルシータ *La cumparsita*

詞・補作曲：パスクワール・コントウルシ Pascual Contursi ; 補作曲：ロベールト・フィルポ Roberto Firpo

曲：ヘラルド・マトス・ロドリゲス Gerardo H. Matos Rodríguez

1916年ごろ、ウルグアイの首都モンテビデオの高級キャバレー経営者の息子で、大学生だった作曲者が、カーニバルのパレードのテーマ曲としてつくりました。1924年に、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで、大衆演劇の挿入歌として、脚本家のひとりだったコントウルシが、最初の部分に新しいメロディを付け（原作そのままでは歌いにくいので）、全曲に作詞しました。

あなたにわかってもらえるだろうか！ まだ、わたしは

魂の中に、あなたへの愛情をもちつづけていることが。

友達もたずねてこない。見捨てられた小部屋には、もう朝の太陽も、窓から顔をのぞかせてくれない。あの仲間だった子犬も、あなたがいないことでものも食べなくなり、やっぱり、わたしを見捨てていった。

あなたにわかってもらえるだろうか！ わたしが決してあなたを忘れなかったことを。過去をふりかえれば、きつとあなたも、わたしのことを思い出すにちがいない。

お聴きいただき、ありがとうございました。
またお会いできるのを楽しみにしております。

選曲・構成：峰 万里恵／プログラム制作：高場 将美

<http://mariemine.web.fc2.com>